

異なる岸辺から見たカリフォルニア海岸

クリステン・ハヤシ

(全米日系人博物館学芸員コレクション・マネージメント&アクセス担当ディレクター)

私は、ロサンゼルスの中米日系人博物館 (JANM) に史学者兼学芸員として勤務する日系四世です。和歌山とカリフォルニアを結ぶ共通の移住史への理解を深めることを目的とした研究プロジェクトを通じて、過去4年間に3度日本を訪れ、和歌山県立近代美術館 (MOMAW) とは姉妹館締結をしました。

今年度は連携先が千葉県に広がり、2025年9月には館山市と南房総市を訪れました。和歌山・千葉・カリフォルニアを結ぶ黒潮について学ぶことで、理解がさらに広がりました。南和歌山と同様、南千葉の海岸線も、私の馴染み深いカリフォルニア州中部海岸にとってもよく似ています。この景観を眺めながら、これらの都市を歴史的に結びつけてきた強いつながりに気づかされました。

私たちは日系移民の歴史 (ディアスポラ) をアメリカにおける日系アメリカ人の視点から見ています。三世、四世、五世として自己認識する米国在住の日系人にとって、JANM の収蔵品やアーカイブ資料は、移民後のより広範な日系アメリカ人の経験の中で、自らの家族がどのように位置づけられるかを理解する助けとなります。祖父母や曾祖父母の米国での経験を知ることは非常に興味深く、また、日本の家族史にも多くの者が関心を抱いています。

だからこそ、同僚のエヴァン・コダニが千葉滞在中に曾祖父・小谷源之助の足跡を辿る姿は感動的でした。南房総市の小谷家墓所や源之助ゆかりの地、一世移民のアワビ漁業への貢献を展示した館山市「渚の博物館」を訪れたことも意義深い体験でした。映像作家として、エヴァンは普段カメラの後ろに立ち、他者の人生経験や家族史をインタビューし撮影する立場です。今回、焦点がエヴァン自身に当たり、彼の曾祖父や祖先に関連する史跡や歴史資料を直接見ることができた体験は格別でした。

日系移民の米国への初期移住に関する物語は、しばしば単純化され、19世紀末から20世紀初頭にかけての一方通行であったかのように示されます。しかし、太平洋をまたぐ日米間の移住パターンや交流などは、当然ながらはるかに複雑で流動的でした。南房総とモンレーの海岸を結んだアワビ漁業関連の遺産を目の当たりにした時、この事実は極めて明白でした。館山の博物館とモンレーの日系アメリカ人市民同盟 (JACL) 会館に展示された万祝は、20世紀初頭に両地を結びつけた強く固い絆を物語っているのです。

また、NPO 法人安房文化遺産フォーラムの皆さんが、小谷源之助・仲治郎兄弟らについてまとめた膨大な研究は実に印象的でした。発掘された広範な調査と、この歴史を組み立てるのに役立つ歴史資料を理解することで、日系人の経験が米国史であると同時に日本史の一部でもあることが改めて浮き彫りになりました。この事実を知り、いつか山口県・新潟県・群馬県に連なる私の祖先のルーツについて、もっと深く学べる日が来るのではないかと希望が湧きました。

この継続的な研究プロジェクトを通じて、私たちは太平洋の両岸に広がる人的ネットワークを認識しました。それぞれの研究が互いに補完し合い、和歌山・千葉・カリフォルニアを結ぶテーマをより包括的に理解する基盤を築いています。こうした日米のつながりは、太平洋や私たちを隔てる様々な違いを、それほど広大には感じさせません。JANM と MOMAW が最近開催したオンラインシンポジウム「アンダーカレント (底流): 日本からカリフォルニアへ、共通の歴史を辿って」では、私たちが共同しさらに発展させていくであろう、魅力的な研究が紹介されました。私たちの共有された歴史についてさらに学び、この研究の発展に貢献できることを楽しみにしています。